

ガソリン価格の推移と 年間自動車販売台数の変化

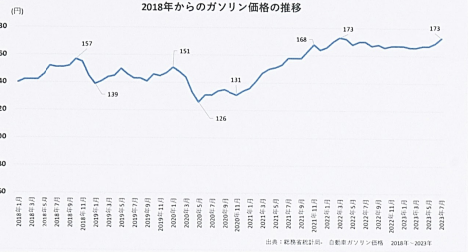
< 動機 >

車にガソリンを入れるときに、父や母が「昔に比べるとガソリンの値段が高くなったね」、「ガソリンを使わない車欲しいねえ」と言っているのを聞いて、最近のガソリン価格の推移と自動車の販売台数がどうなっているか気になったので調査してみた。

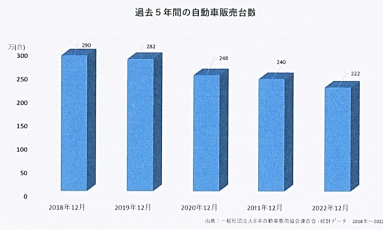
< 調査方法 >

2018年からのガソリン価格の推移を調べて、それによる自動車販売台数がどのように変わっているかを調査する。

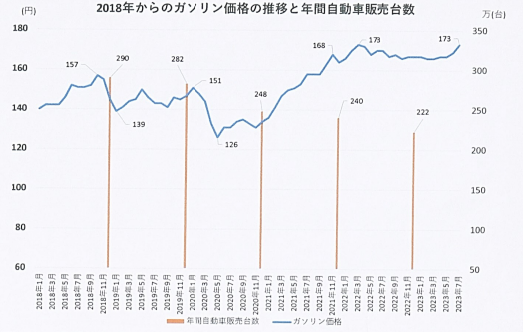
1.



2.



3. < 2018年からのガソリン価格の推移と年間自動車販売台数 >



< 2018年からのガソリン価格の推移 >

調査開始の2018年初頭から2019年末までは150円台付近を上下していたが、2020年初頭に一旦原油価格が下落した。しかし、同年の春ごろから今に至るまでガソリン価格の上昇傾向が続いている。さらに調査したところ、2021年1月から資源エネルギー庁が燃料油価格激変緩和対策(ガソリン価格の全国平均が1リットルあたり170円以上となったときに、政府が価格抑制のために1リットルあたり35円を上限に石油会社へ支給)を導入し、ガソリン価格上昇対策を図っていることがわかった。
☆燃料油価格激変緩和対策は2022年1月27日に初めて発動された。

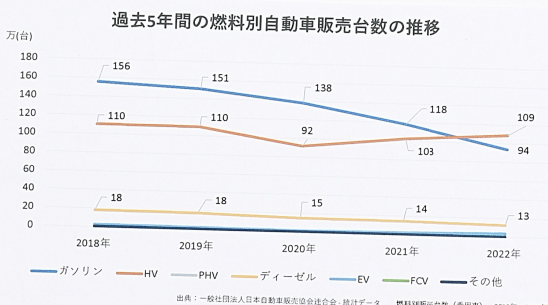
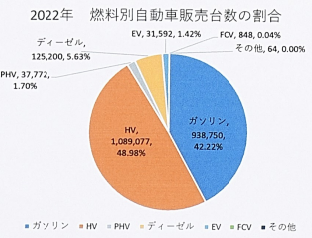
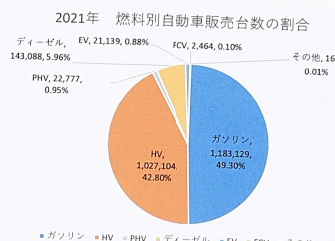
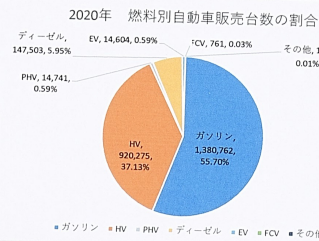
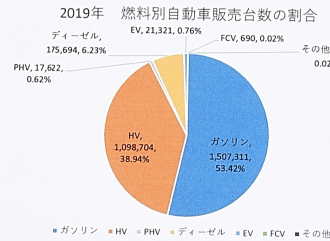
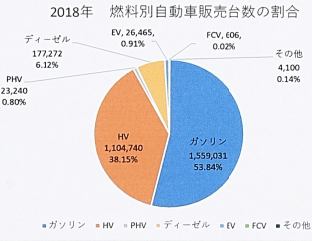
< 過去5年間の自動車販売台数 >

年度ごとに減少していることがわかった。要因の一つとしてガソリンの価格の上昇によって、ガソリン車の販売台数が減少しているのが原因ではないか？

ガソリン価格の高止まりについては、OPEC（石油輸出国機構）とロシアで構成されるOPECプラスで2022年末まで原油の減産延長で合意している事と、円安傾向が続いていること。これに加えて、ロシアによるウクライナ侵攻により高騰に拍車がかかっている。

4. < 過去5年間の燃料別自動車販売台数の割合 >

出典：一般社団法人日本自動車販売協会連合会 - 統計データ 燃料別販売台数 (乗用車) 2018年～2022年

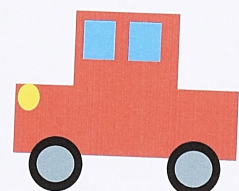


< 過去5年間の燃料別自動車販売台数の推移 >

2018年～2020年までは、ガソリン車の販売台数が販売台数の半分以上を占めていた。2021年以降ガソリン車の販売数減少が目立ち始め、代わりにハイブリット車が年間販売台数の半数近くを占めるようになった。原因としては、2021年からハイブリットを含む電気自動車の購入に対して政府から補助金が出るようになったため、ハイブリット車の販売台数が増加したと考えられる。

< まとめ >

ガソリン価格は石油輸出機構の生産調整や、円高と戦争によって高騰していることがわかった。ガソリン価格の上昇による自動車販売台数減少については、ガソリン車の販売台数減少が要因の一つとして考えられる。また、今回は調べられなかったが、その他の要因として、自動車の販売価格上昇や所得の減少もあるのではないかとと思われる。今後、電気自動車が普及することで、電気消費量が増加することが考えられる。最近では電気代金の高騰が続いているので、それらの影響による電気自動車の動向も調査してみたい。これから将来に渡り、ガソリン価格の高騰を抑えたり、自動車の販売台数を増加させるためには、石油価格緩和対策の追加検討や補助金の活用、所得の増加が必要になってくると考えられる。



参考文献：
総務省統計局 - 自動車ガソリン価格 < 2018年～2023年 >
一般社団法人日本自動車販売協会連合会 - 統計データ < 2018年～2022年 >